

父は和田竹造（大和藩士）、母は静岡三島大社の神官の娘うたの3男。

梅吉4歳の時、父竹造死去のため母方の郷里三島に移り住む。

1875年 7歳、神童といわれた英才、「映雪舎」という塾のような小学校に入る。兄和田栄次郎が教師をしていた。

1879年 11歳、旧家で名主の米山家の一人娘のはる（春子）養子に望まれる。

1881年 13歳、沼津東高校の前身沼津中学校入学、8キロを通学。

第一の師江原素六（麻布中学の創立者）に出会い詩や文の才能を磨く。

1883年 15歳、卒業前に米山家に無断で友人の助けにより、上京。苦学、銀座江南学校に入る。

1885年 17歳東京府の官吏試験に合格し、生母と同居。東京英和学校にて英語を学び渡米の準備をする。歴史、文学、詩、和歌、俳句、新聞記者志望。

〈渡米〉

1887年 19歳、米山家に正式に入籍し、米山と名乗り渡米する。サンフランシスコの福音会に寄宿。

キリスト教伝道師の後の青山学院長の第二の師本田庸一に出会う。

米山梅吉翁は直情径行の人、周囲を気にせず、自分の思った通り行動する人。

巧遅、拙速（巧みなれども遅し、拙なれども速し）功を急がないようにと諫めた。一生の座右の銘とする。

歌舞伎俳優の幸四郎と間違えられたほどの美形、生涯信仰の道に入らない。

政治、文学などの一般科目を学び、渡米8年にしてアメリカの知識を持った堂々たる日本の紳士として1895年帰国。

1896年 28歳、養家の春子と結婚。「提督彼理」を著す。日本人としてアメリカを書いた著書。

勝海舟（1823-1899 明治32年）に師事。日本鉄道会社に就職。

〈三井銀行時代〉

1897年 29歳、三井銀行に入社、アメリカの大学卒、演説上手、英語は自在、容姿端麗、話し方の巧さなどで順調な出世、欧米の銀行業務視察1年間、勝海舟の口添えで秘書官（政治家への道）の誘いを断る。

1909年 41歳、常務取締役就任、財界・銀行業務での活躍際立つ。

1914年（大正3年） 46歳、「新隠居論」を上梓、米山翁の奉仕論、「西洋の隠居は引退することなく隠居してなすべき仕事を見つけ出し、社会のために奉仕することがなくては人間としての義務を果たしえない。事業に成功して目途がいたら後進に道を譲って報恩・社会奉仕の方法を探しなさい」。言行一致の人。

1920年 52歳、東京ロータリークラブ設立し会長となる。

1921年 53歳、長男東一郎（20歳）逝去。1926年、58歳、次男駿二（21歳）逝去。

1923年 55歳、三井銀行常務取締役を辞す取締役。三井信託株式会社を創立準備に入る。関東大震災（9月1日）

1924年 56歳、三井信託株式会社設立、66歳まで社長を務める。資本金3千万円。

〈三井報恩会〉

1934年 66歳、三井銀行取締役・三井信託社長辞任。三井報恩会（1934）設立し、三井財閥3千万円出資、1,000億円に相当。社会・文化事業に貢献する目的。理事長に就任。

①医療・福祉関係 ライ、ガン、結核など養老院や医療機器の寄付、養護施設、保護施設への補助

②農村振興事業 農村の文化健全娯楽助成、羊の輸入、疲弊した農家を復興させる。

③学術研究、研究団体助成が多い。

〈戦前のロータリークラブ終焉〉

1940年 72歳、9月11日、東京ロータリークラブ解散やむなしと決議した。水曜会

1945年 9月入院、11月退院。長泉村下土狩に帰る。

1946年 4月28日、享年78歳3ヶ月逝去 翌年ポールハリス逝去



〈ロータリークラブの復帰と米山記念奨学会の設立〉

1949年 日本ロータリー国際ロータリーに復帰。

1952年 東京ロータリークラブ奨学事業の構想を立案、設立趣意書。翌年募金を開始、54年ソムチャード君来日。

〈米山梅吉翁の教育奉仕（個人）〉

【青山学院】恩師本多庸一への報恩、長男東一郎の記念館柔剣道場の寄付、昭和12年青山学院の初等科（緑岡小学校）の創立、全額私財、経営方針など一切を仕切る。学校後援会、保護者会など認めない。

【立教大学】画家を目指していた次男駿二の他界の7年後に心理学実験室を寄贈。

【郷里長泉町】昭和6年、図書館と蔵書1000冊寄贈。当時6230円

“Service, Not Self”の人であった。“Service Above Self”

■ IM (Intercity Meeting) とは？

IMとは Intercity Meeting の頭文字で、近隣都市の複数のクラブで実施する都市連合会のことです。グループ（地理的狀態や広さなどにより、地区が幾つかのクラブに区分されている）、分区単位でのクラブや、大都市の場合、その都市内の数クラブの会員が集まり、合同で行う自由討論会であり、ガバナー補佐が主催することが多いようです。その目的は第一に会員相互の親睦と交流を広め、会員にロータリー情報を伝えると共に、優れたロータリアンの養成にあります。そのため、経験豊かなリーダーの下で、ロータリーを学ぶ集いです。ですから、決議や決定はなく、討論の主な内容は、ロータリーの特徴やプログラムなどを検討します。会員相互の親睦と知識を広めることであって、さらに、会員にロータリー情報を伝え、勉強するために開催されます。テーマはロータリーのこと、そして一般社会のことで、そのときに話題になっていること、考えなければならない問題点など、多岐にわたります。形式も講演、フォーラムなどいろいろあります。この会合では、知識を広め深めるとともに、グループ、分区内の会員の親睦も重要な目的ですから、懇親会も併せて開催されます。